

[例会報告]

## 平成 28 年度 第 2 回身延山大学東洋文化研究所例会において ラルン五明仏学院副院長ケンポ・ツルティム・ロドウ師 による記念講演を行なう

平成 28 年度 第 2 回身延山大学東洋文化研究所例会が平成 29 年 1 月 18 日(水)午前 11 時より身延山大学本館 207 号教室にて行なわれた。第 2 回も前回例会の東国大学校からの外来講師に引き続き、ラルン五明仏学院副院長ケンポ・ツルティム・ロドウ招聘委員会事務局からの要請を受け、ケンポ・ツルティム・ロドウ師（ラルン五明仏学院副院長）を講師に迎え記念講演を行なった。

外来講師ということでもまず、浜島典彦身延山大学長・望月海慧身延山大学東洋文化研究所長と面談。その後、「チベット仏教における修行階梯について」と題し記念講演となった。



本講演ではまず、師の所属するラルン五明仏学院について映像を用い紹介。ラルン五明仏学院はチベット仏教界を牽引する僧院大学ということで、この身延山大学とその存在意義をともしるといふ。続いて日本仏教とチベット仏教の違いについてチベットにおける転生思想を中心として述べ、両国における仏教界の相違を継承・世襲文化を例として挙げ、チベット仏教における修行階梯などについて説明した。さらに、亡くなった人間についての救済は仏教しかないとし、死者に対する正しい供養の仕方、さらにそれを担っていく僧侶の育成の重要性を死者供養という観点から述べ、「祈りのみでは世界の救済はない。人の心の変化が重要であり、仏教のみがそれを可能とする」と結ばれた。研究所員はもとより、今回は身延山大学生も聴講したためか、平易な口調で分かりやすく講演する師の言葉に聴衆は聞き入っていた。

師は講演の後は、ラルン五明仏学院副院長ケンポ・ツルティム・ロドウ招聘委員会事務局の関係者らと浜島学長、望月所長と会食。日蓮宗総本山身延山久遠寺を参拝した後、次の講演先へと移動された。



本年は 2 回の外来講師による記念講演を開催することができ、近年まれにみる盛況のうちに本年度の例会を締めくくった。

記録 木村中一（身延山大学仏教学部准教授・身延山大学東洋文化研究所主任）